

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	3年度
事業名	民俗資料館管理運営事業	担当課	教育課
事業内容(簡潔に)	郷土に遺された文化的資料の収集、保存、活用を図り、市民等との交流を通じて広く教育及び文化の発展に寄与する事業		

### 1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第7次総合計画での目的体系	基本方向	夢を持ち、明日を担う人材を育むまちづくり
	政策	誰もが「生きる」喜びを感じるまちづくり
	施策	地域文化の継承・地域の文化財の保護
関連する個別計画等	根拠条例等	韮崎市民俗資料館設置及び管理条例

### 2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	郷土に遺された文化的資料の保存と活用を図り、本市文化の発展に寄与することを目的に設置した民俗資料館の管理運営を行う。
事業の手段	資料館の収蔵品などを中心とした企画展やイベントなどを開催し、文化財を通じた学習機会を創出する。また、資料を学術的に分析し、文化財の本質的な価値を判断するための基礎的データを作成することで、文化的資料の保存目的の一つを果たす。
事業の対象	市民及び来館者

### 3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		30年度	元年度	2年度
財源内訳	A 事業費 (千円)	2,321	1,936	2,001
	国・県支出金	0	0	0
	その他(使用料・借入金ほか)	0	0	573
	一般財源	2,321	1,936	1,428
B 担当職員数(職員E) (人)	1.07	2.01	2.02	
C 人件費(平均人件費×E) (千円)	7,342	13,497	13,281	
D 総事業費(A+C) (千円)	9,663	15,433	15,282	
主な事業費用の説明	シルバー人件費、光熱水費、警備委託費、消耗品費等			

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した30年度(6,862千円)、元年度(6,715千円)、2年度(6,575千円)を使用しています。

### 4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
活動指標	1 学習機会創出・開催・対応数(回)	出前講座等の開催・対応数	44	34	27
	2 文化財関連グッズ販売数(個)	販売数	0	0	1,791
	3 開館日数(日)	開館日数	294	268	244
妥当性	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない				
上記活動指標と妥当性の説明	1	韮崎市の文化的資産の魅力について見学・学習する機会を設けること及び講師派遣依頼による魅力伝達が目的の一つであることから、その開催・対応数の把握は妥当。			
	2	資料館の目的の一つは、市内の文化財の存在や価値を市内外に広報することである。その一手段として文化財関連グッズを製作販売があることから、その販売数の把握は妥当			
	3	民俗資料館において韮崎市の生活文化・歴史などを公開することは、市民文化醸成に影響を与えるため、開館日数の変遷の把握は妥当。 (令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館のため開館日数が減少)			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			30年度	元年度	2年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	来館者数(人)	7,529	7,158	5,381
	2	学習機会創出希望対応数(回)	44/44 100%	34/34 100%	27/27 100%
	3	他館等への資料等貸出数(点)	29	44	28
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館のため令和2年度は減少している。			
	2	出前塾等の講師派遣等は随時対応であるが、できる限り希望に沿った形で対応し、学習機会の創出に努めている。			
	3	他館等へ貸出することで、他館で本市の持つ文化財の価値を伝える機会の創出となる。近年では、城ブームもあり御城印(新府城)が全国販路の雑誌などに取り上げられ、本市への観光客の増加につながっている。			

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)				
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)				
	令和3年度の改善計画(今後の事業展開説明)				
過去の改善経過	○アウトプット (企画展:文化財の本質的価値を伝えることを目的とする) 11月上旬 徳島壇に関連する企画展を開催する 1月 【鎌倉13人】に登場する、甲斐武田氏の祖である武田信義に関する企画展を開催する (グッズ製作・販売:グッズ対象の文化財の広報素材として販売することを目的とする) 1月 御城印(白山城)・武将印(武田信義)の作成・販売する ○インプット 上記企画展に関わる調査・研究及び資料の収集をおこなう。				
	改善の経過	韮崎市民俗資料館の管理・運営体制の変遷 設立当初:教員退職者を中心とした管理 :民俗資料館運営審議会の委員により管理 ↓ (常設展や企画展の定期的な開催・市民等の学習機会の創出の必要性) ↓ 学芸員(非常勤嘱託職員・任用職員)を雇用 事務局長(再任用職員)を雇用(H31.4~) 令和2年度~ 文化財関連グッズの販売を開始			
	直近の評価結果	内部評価	令和元年度	<input type="checkbox"/> 拡大      - <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	
	外部評価	平成29年度	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 全部改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止		
	改善案	・史資料が増加傾向にあり基礎的な整理が進まないことから、12月までに全体像を把握し、今後の史資料の分析応用する方針を作成する。 ・民俗資料館敷地内の定期的な環境整備を行う。6月・8月・10月に除草作業を実施する。 ・平成31年4月から雇用している再任用職員を活用し、史資料の整理や敷地内の環境整備体制を推進する。			
課長所見	・市内の縄文遺跡出土品の日本遺産認定や本丸北側虎口での礎石発見で県内外から注目を浴びた新府城跡、2022年大河ドラマでは、甲斐源氏の祖・武田信義が取り上げられるなど本市が誇る歴史文化遺産を活用し市内への誘客に如何に繋げていく取組が必要である。 ・縄文遺産に絡めた土偶型のグッズや武田氏関連の御城印、武将印の作成・販売、また、可能な限り、現地での解説依頼への懇切な対応を通じて、県内外へのPRと個人・小グループで訪れるコアなファン層への訴求を高めていく。				